

経営改善アクションプランの進捗状況

当社は厳しい林業情勢の中、収支の改善と環境に配慮した森林整備を推進するため、平成25年3月に「第9次長期経営計画(期間：平成25年度～平成95年度)」を策定しております。さらに平成25年度から平成29年度までの5ヶ年については、具体的な改善目標を掲げたアクションプランを作成し、その目標達成に向けて取り組んでおります。

主な取り組みに関する5ヶ年の進捗状況は、次のとおりとなっております。

【分収造林契約の見直し】

① 契約期間の延長

目標：契約期間が65年以下の契約地を土地所有者の同意を得て80年間に変更する。

目標面積は、27,894ha(全ての分収造林契約)

効果：①生産量、優良材生産比率の増による販売収益の増加

②徐々に針広混交林や広葉樹林に転換させ、皆伐による裸地化を抑制

区分	～H24末 実績	9次計画					(単位：ha) 計
		5ヶ年間の計画と実績					
		H25	H26	H27	H28	H29	
計画		1,200	1,200	1,100	1,100	1,030	27,894
実績	22,265	783	476	857	602	-	24,983
達成率		65%	40%	78%	55%	-	90%

② 分収割合の変更

目標：土地所有者4割・林業公社6割の分収割合を土地所有者の同意に基づき、土地所有者3割・林業公社7割に変更する。

目標面積は、スギ人工林19,980ha(収益対象森林21,258haの内数)

効果：分収割合を見直すことによる収支の改善

区分	～H24末 実績	9次計画					(単位：ha) 計
		5ヶ年間の計画と実績					
		H25	H26	H27	H28	H29	
計画		1,100	1,100	1,100	900	455	19,980
実績	15,325	551	715	844	552	-	17,987
達成率		50%	65%	77%	61%	-	90%

将来の収支見通し(試算)

第9次長期経営計画に基づく長期収支の見込みは、期間が平成95年度末と超長期であるため、この間、木材価格・賃金・補助制度などの収支予測に関連する全ての因子が現状のまま推移すると仮定し、契約期間の延長による長伐期施業や分収割合の変更などの改善目標がすべて達成されたものとして試算しております。

前述のとおり、長期計画は超長期であるため、毎年度、木材価格を見直したうえで、長期収支を公開することとしております。

平成29年度における長期収支の試算結果は、次のとおりです。

試算年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29
長期収支 (単位：億円)	+71	+24	+45	+56	+66	+27

※H24年度は、9次計画の試算(木材価格：H23年平均単価、消費税：～H95年度 5%)

※H29年度は、9次計画をベースに以下の条件のもと再試算

(木材価格：H26年度～H28年度の平均単価、消費税：～H31年9月 8%・H31年10月～ 10%)